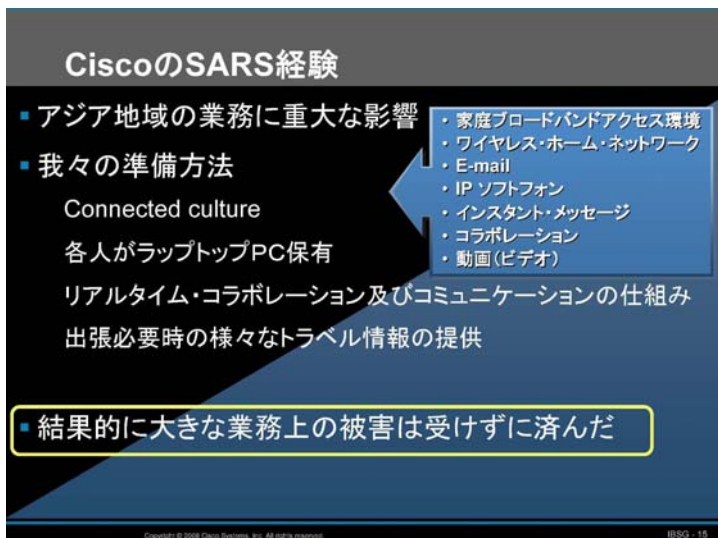


新型インフルエンザと事業継続計画

今日の日本企業の活動は、中国を初めとするアジアとの関わりなしに行うことは難しくなっています。新型インフルエンザがたとえ海外で発生したとしても、大流行（パンデミック）の際には、日本企業の活動に大きな影響が出ることは必至です。仮に日本での発生があれば、前例のない状況が訪れます。

多くの企業が作成している一般的な事業継続計画 (Business Continuity Plan) では、社員がオフィスにいて業務を行うことが前提となっています。新型インフルエンザが発生すると、この前提が成り立たなくなり、事業継続計画そのものを再検討する必要があります。

数年前、アジア地域で SARS が流行した際に、シスコのアジア太平洋地区の諸拠点では、テレワークを最大限に活用することで、業務の継続を可能にしました。企業が運営するすべての業務をテレワークで処理することは不可能ですが、ホワイトカラーを中心としたナレッジワークの大半にテレワークを適用できるということは、弊社の取組みによって実証されています。



CiscoのSARS経験

- アジア地域の業務に重大な影響
- 我々の準備方法
 - Connected culture
 - 各人がラップトップPC保有
 - リアルタイム・コラボレーション及びコミュニケーションの仕組み
 - 出張必要時の様々なトラベル情報の提供

結果的に大きな業務上の被害は受けずに済んだ

Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved. IBSG - 15



鳥インフルエンザ対策においては、リスクマネジメントの原則を適用し、不測事態に際して何を守るべきかという絞込みから始めるのが得策です。すなわち、パンデミックが起こった際の自社の経済的インパクトを把握することから始めます。例えば、業務が1時間ストップするといくら売上が落ちるのか、あるいはいくらコストが上がるのかなどといったことを、きちんと数字で把握します。

一方で、企業の存続は、経済的にインパクトの大きな業務だけを守れば済むと言うものでもありません。例えば、R&Dを競争力の源泉とする企業の場合、目に見える定量的な要素だけで守るべき領域を決定していくと、R&D部門が対象からはずれてしまうという可能性もあります。また、ブランドのような目に見えない財(インタンジブルアセット)の毀損にも注意を払う必要があります。別な観点では、企業が果たすべき社会的責任(Corporate Social Responsibility)の観点もおろそかにしてはなりません。例えば、コミュニティとの連携や国・自治体との情報共有の仕組みを平時から機能させておいて、不測の事態に備えます。

これらを総合的に勘案しながら、企業としての存続が可能になるように、業務や財を絞り込んでいくこととなります。限りある予算枠の中で、どの業務を継続の対象にするのか、あるいは継続にはそれほどお金をかけず、むしろ事後のリカバリーをスムーズに行える環境を整えておくのかといった、優先順位を議論する必要があります。

*本テキストは、2008年8月6日に開催された日本経済新聞社主催セミナー「いま、企業に求められる新型インフルエンザ対策」においてシスコシステムズ インターネット ビジネス ソリューションズ グループ パートナー 石井延幸が講演した内容の概略です。

More Information

The Cisco Internet Business Solutions Group (IBSG), the global strategic consulting arm of Cisco, helps CXOs and public sector leaders transform their organizations—first by designing innovative business processes, and then by integrating advanced technologies into visionary roadmaps that address key CXO concerns.

For further information about IBSG, visit <http://www.cisco.com/go/ibsg>.



Americas Headquarters
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

Asia Pacific Headquarters
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
Singapore

Europe Headquarters
Cisco Systems International BV
Amsterdam, The Netherlands

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses, phone numbers, and fax numbers are listed on the Cisco Website at www.cisco.com/go/offices.

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco StadiumVision, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CGDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0804R)